

宇都宮市立陽南中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した生徒の割合は93.1%で、9割を超えており、これは全国平均を11.7ポイント上回っている。学校重点目標の1つであり、学級や学年、生徒会活動を通して「いじめの防止」を全校体制で取り組んできた成果と考える。今後も、継続した指導を続けていきたい。

○「授業で、コンピューターなどのICT機器をほぼ毎日使用した」と回答した生徒の割合が27.8%で、全国平均を20.4ポイント上回っている。今後も、GIGAスクール構想におけるタブレットなどの活用を一層進め、生徒の技術力の向上に努めた指導をより高めていきたい。

○国語の授業では「学習したことが将来に役立つ」が61.1%で7.4ポイント、「言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり、使ったりしている」が45.4%で9.9ポイント、「目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている」が36.6%で13.9ポイントそれぞれ全国平均を上回っている。これは、習熟度に応じた発問の工夫や、一人一回発言の機会を設けるなど、全員参加の授業を心がけた成果と思われる。その結果、生徒が「伝える」ということを意識し、生活の中で活かすようになったと考える。今後も実生活で役立つような言語学習を心がけていきたい。

●今回の国語の学力調査において、時間が「やや足りなかった」「全く足りなかった」を合わせると38%であり、全国平均を13.5ポイント上回っている。今後、問題を読み取り、答えていく力をつけさせていくように指導していく。しかしながら、国語に対する他の質問では、国語に対する好意的な意見が多く、あきらめずに取り組もうとする姿勢とも見受けられる。

●国語で「解答を文章で書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒は66.2%で、全国平均を7.5ポイント下回り、数学で「解答を言葉や数、式を使って説明する問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒は45.8%で、全国平均を12ポイント下回っている。

今後、各教科において粘り強く問題に取り組んだり、知識を活用して解答に結びつけたりして、「文章でかく」ことを意識した指導を取り入れていきたい。

宇都宮市立陽南中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|--|---|---|
| ・個に応じた指導、指導方法や指導体制の工夫・改善を図るとともに、家庭学習を充実させ、生徒一人一人の確かな学力の育成に努める。 | ・「家庭学習の手引き」を活用する。 ・生徒会と協力し、自主学習の呼びかけ、徹底を図る。 ・ICT（タブレット）を活用した「学習の個性化」や「指導の個別化」により課題の充実に図る。 | ・家で学習に取り組む（予習・復習を含む）かを問う質問では定定的な意見が61.1%で全国平均と同程度である。今年度から重点的に取り組んでいる指導であり、継続してより改善を図っていく。 |
| ・「ほめて伸ばす指導」の充実を図り、自信と誇りをもって生き生きと学校生活を送る生徒の育成を図る。 | ・生徒のよさを見つけ、声掛けを行う。特に教育相談や懇談において、具体的なよさを伝えられるようにしている。 | ・「失敗を恐れず挑戦する」「困っている人を進んで助ける」「人の役に立つ人になりたい」などの質問で肯定的な意見が全国平均を上回っている。褒められ、認められることで生徒の自信や成長につながっていると考えられる。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|--|-----------------------------|--|
| ・発表や話し合い活動を苦手とする生徒が多く見られることが、調査の結果から読み取れる。また、生徒は話し合いの機会が少ないと感じている。 | ・授業において意図的に発表や話し合い活動を取り入れる。 | ・発表するための基礎的な知識（用語や言葉等）の習得や言語活動に力を入れる。 ・学級活動等でも積極的に話し合い活動を取り入れることで、学級における話し合いの素地を作る。 ・小集団での発表や話し合いを通して、それらの能力を養っていく。 ・ICT（タブレット）の活用で話すことが苦手な生徒にも発表の機会を文字を通して与える。 |